



教育目標「夢と志をもって生きる木戸っ子」

木戸っ子心の目標 **“世界で一番心のあたたかい木戸小をめざそう”**

令和8年度の重点

- 主語を子どもに、子どもたちを主体に置き、一人ひとりに寄り添い、子どもたち自身の視点を生かすことを大切にする。
- 地域と連携・協働した社会とつながる教育活動を推進し、地域とともにある学校を核とした教育課程を編成する。
- ICTの効果的な活用と合わせて、「人・もの・こと」と出会い、身体（見る・聴く・触る・対話する）を使ったりリアルな体験活動の機会を意識化し、充実させていく。
- 「価値ある材と出会う・問いをもつ・対話する・振り返る」探究的な学びをすすめ、自分に合った「学び方」を身につける授業づくりを追究する。
- 全教職員が特別な配慮や支援を必要とする子どもへの対応力を身につけ、特別支援学級を学校全体で支える組織的な支援体制の充実を図る。
- 教科担任制およびチーム担任制を視野に入れ、小規模校の利点を生かして全教職員で全児童を支援する。



木戸小の子どもと先生のあたりまえ

- 気持ちのよいあいさつができる。
- 健康で安全に過ごすことを心がける。
- 時間どおりに行動する。
- いじめは絶対しない、許さない。
- そうじをがんばり、美しい木戸小学校にする。

百間堤の教育

学区内にある四ツ子川の百間堤は、度重なる水害に苦しんだ地域の先人が「百年後の子孫に災難を残すな」との思いで、花崗岩の巨石を積み上げた堤防であり、160年以上経た今も立派に機能している。学区には地域を守り、未来に備える「百間堤の精神」が今も息づいており、教育への関心は高く学校への支援も篤い。百間堤の精神を基盤に据え、未来に羽ばたく子どもたちを育成することが、本校の使命である。

**【自分で判断し、決定し、実行できる
そして責任がとれる子ども】育成**

エージェンシー

OECD ラーニングコンパス2030

子どもたちがウェルビーイングを実現していくために自ら主体的に目標を設定し、振り返りながら、責任ある行動がとれる力

むきあう

進んで学ぶ子

- 自分の考えを持ち、表現する力の育成
- 対話を通して、自分の考えを広げ、深める力の育成
- チャレンジする力の育成

つながる

なかよく協力し合う子

- 相手の気持ちにより添う心の育成
- 多様性と包摂性の尊重
- 特別活動・学校行事の創意工夫

たかめる

明るくたくましい子

- 運動に親しむ態度の育成
- 健康への意識向上
- 自助・共助の精神の育成

具体的な方策

- ◇授業・めあて・振り返りの提示
- ◇学習の振り返り、「個別最適な学び」の充実
- ◇自分に合った「学び方」を身につける
- ◇家庭学習の手引きの発行
- ◇eライブラリ、ICT機器・デジタル教材の活用
- ◇タブレット活用と「書く」活動をつなぐ
- ◇BUNBUN 作文・スモールトーク
- ◇校内研究の活性化（校内研究グランドデザイン、授業アップデートシートの作成）
- ◇「教室へ行こう！」教師同士の授業参観

- ◇年間を通したたてわり活動（異学年交流）
- ◇学級・学年の力を高める集会
- ◇木戸っ子集会
- ◇やるぞカードのふりかえり（クラブ・委員会）
- ◇委員会常時活動の見える化（掲示板・連絡黒板）
- ◇保幼小中の連携（5・5交流など）
- ◇木戸小の当たり前と委員会活動とのタイアップ
- ◇学校だより・HP等による情報発信の充実

- ◇校舎を磨く・いねいなそうじ
- ◇心地よいあいさつ・礼儀
- ◇スローガンの可視化
- ◇委員会とタイアップした過ごしやすい学校づくり
- ◇登下校の安全やマナーに関する指導と支援
- ◇いじめ防止「ぼかぽか☆ぐんぐん月間」6、10、2月
- ◇教育相談月間6、10月
- ◇校則の見直し・教員による共通理解の促進

